

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第 105 回新潟内分泌代謝同好会

日 時 平成 29 年 6 月 24 日 (土)  
 午後 2 時 45 分～午後 6 時  
 会 場 朱鷺メッセ  
 新潟コンベンションセンター  
 中会議室 201

## I. 一 般 演 題

 1 低カリウム血症で発見された統合失調症合併  
 クッシング病の 1 例

長谷川和樹・北川めぐみ\*・安樂 匠\*\*  
 鈴木 克典

済生会新潟第二病院 代謝・内分泌科  
 長岡赤十字病院  
 糖尿病・内分泌・代謝内科\*  
 新潟市民病院 代謝・内分泌内科\*\*

【症例】59 歳，女性。

【既往歴】胃癌手術 (35 歳)。

【現病歴】2 年前に近医で高血圧を指摘されるも放置。某年 1 月 8 日より脱力感が出現し言動異常が出現，15 日に歩行困難となり当院へ救急搬送された。著明な高血圧と低カリウム血症を認め，二次性高血圧症が疑われ当科入院。コルチゾール，ACTH 共に高値であり ACTH 依存性 Cushing 症候群が疑われた。鑑別のため，コルチゾール日内変動，1mgDEXA 抑制試験，8mgDEXA 抑制試験，CRH 試験，メチラポン試験を実施し，Cushing 病が疑われる結果であったが，MRI では下垂体線腫は認められなかった。御本人と御家族の希望でそれ以上の精査は行わず，メチラポン内服で血圧，低 K 血症，近位筋委縮による筋力低下は改善したが精神症状は改善しなかった。転院後，精神科で統合失調症と診断された。

【結語】統合失調症に合併したクッシング病の 1 例という珍しい症例を経験したので報告する。

 2 肝原発のコルチゾール産生副腎遺残腫瘍による  
 Cushing 症候群をきたした Pallister-Killian  
 症候群の女児例

佐々木 直・柴田 奈央・入月 浩美  
 小川 洋平・長崎 啓祐

新潟大学医学部医歯学総合病院 小児科

【背景】ACTH 非依存性クッシング症候群 (以下 CS) は，通常は副腎原発腫瘍によるが，非常にまれに副腎遺残腫瘍による報告もある。

【症例】11 歳，女児。

【既往歴】精神運動発達遅延，特異顔貌，伊藤白斑などあり。頬粘膜 FISH 検査で 12 番染色体のモザイクトリソミー認め Pallister-Killian 症候群と診断した。

【現病歴】10 歳頃から満月様顔貌，中枢性肥満が出現。コルチゾール (以下 F) 高値，ACTH 抑制あり，副腎性 CS を疑われた。身長 121.5cm (-4.3SD)，体重 20.7kg (肥満度 10.9%)。満月様顔貌，野牛肩，細い四肢。ACTH<1.0pg/mL，F 25.9μg/dL，24 時間遊離 F203μg/day。腹部 CT とエコーで肝内に腫瘍認めた。<sup>131</sup>I アドステロールシンチグラムで同部位に集積亢進し，副腎機能性腫瘍と判断した。開腹下に腫瘍摘出し，病理診断で副腎皮質腺腫と判明，肝内副腎遺残腺腫による CS と診断した。

【考察/結語】副腎遺残は腎/骨盤腔内の割合が多く，肝内はまれである。小児においても，肝原発の副腎遺残が機能性腺腫となり CS を引き起こさう。